
沖縄の歴史情報研究への関わり

星野 聡：京都大学名誉教授

筆者は、本研究の一部として、『歴代宝案』テキスト（台湾大学本）を画像として入力し、CD-ROM化する作業を自分で行ってみたいので報告しておきたい。これは、研究者自身で可能な作業であることを、歴代宝案のような、かなり大きなテキスト（8811 ページ）に対して実証すること、さらにこれを適当なファイルサイズに収め、しかもテキスト内容を確認できる解像度を確保できることを示すこと、さらにそれがどのように役立つかを研究するための画像資料としようというのがこの目的である。

テキストがどのような字体や字形の文字で書かれているか、またその配置などについての確認は、テキスト画像によるのがよいと考えている。というのは、テキストを使用する一般の研究者にとっては、ファイルを物理的な順序で検索すれば、簡単に内容が調べられるのがよい。ところが文字だけでテキストの字形や文字の配置なども表現するために、テキストに種々の記号を付加する場合は、テキスト利用上不便になる。また例えば、双行注を文字だけで示すには、本文を含めて三行分を使って表現することもできるが、テキストの論理的な順序が乱される。これは、テキスト検索をしたい場合に致命的である。論理的な記述の順序と物理的な順序は、矛盾することが多い。そこで、テキストの字形や文字の配置などの確認はテキストの画像によることにして、電子化テキストとしては、画像として格納されたテキストも併用するのが望ましい。ただし、問題点もある。それは、テキストに付加された注記が細字であれば、画像的には鮮明に読みとり難いことがあることである。もしも、これを充分読めるようにすると、高い解像度を要することになり、ファイル容量が著しく増加して、CD ROMの枚数が増加する。これは不便であり、不経済でもある。そこで、適当な解像度で妥協すべきである。歴代宝案のテキストでも、この種の問題がある。これは、筆写者によって、文字の大きさが異なるためである。

画像は、濃淡を表現できるグレースケールで、その圧縮は jpeg 方式によった。解像度は、150dpi で、約 1/10 に圧縮した後のサイズは、画像の細かさによるが、サンプリングによれば、1 ページの平均 114KB である。作業は、スキャナーの蓋を少なくとも 8811 回、開閉することを含む単純作業である。

画像は、適当な画像処理ソフトで拡大し、必要ならば鮮明化などの画像フィルターをかけることよい。鮮明化は、画像を CD ROM に焼きつける際、既にかけておくかどうか、判断の分かれるところである。鮮明化のフィルタをかけた結果として、画像が荒れる可能性があるためである。筆者は、CD-ROM から読んだ際、すでに鮮明化のフィルタが使用されている方が、研究者が手軽に見るには便利だと考えたので、鮮明化のフィルターはかけて置いた。歴代宝案の画像テキストは、その後、柴山守氏により、Windows 用に変換されて、解像度は 72dpi で、ネットワーク・ブラウザによって表示できるようになった。

また、筆者は、96 年 1 月に奄美大島で行われた研究会「奄美の琉球史料—奄美地域の歴史情報研究」（巡検などを含む）につき、ビデオに撮った動画を CD ROM 1 枚に収めた。使用ソフトは Adobe Premiere 4.0J を使用して映像とサウンドを編集し、再生時間は約 32 分である。この種の作業も、研究者自身で行うことができる。動画も、DVD の利用が普及すれば、歴史情報を記録・保存のための重要な記録方式として、広く活用されるに違いない。